

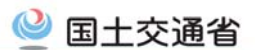
建設分野の担い手を巡る現状と行政側の取り組みについて

1. 建設産業の現状
2. 改正品確法
3. 中部地整の取り組み

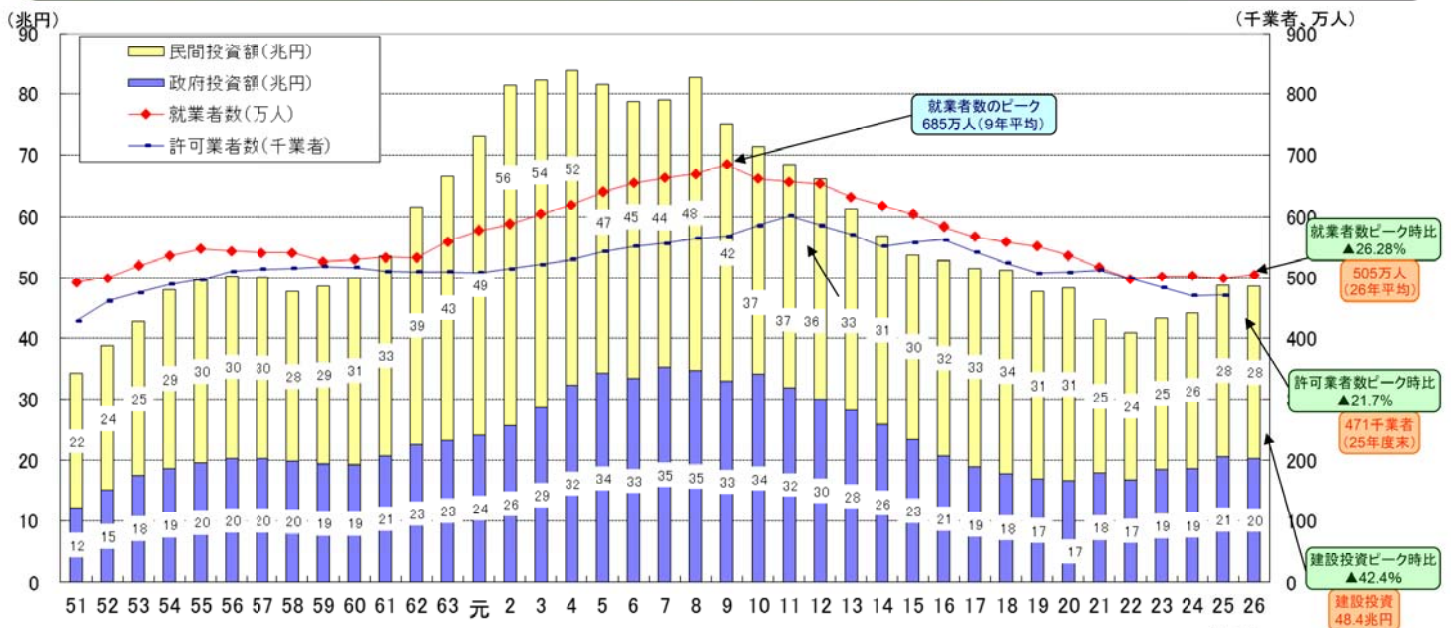


Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

1. 建設産業の現状 (1)建設投資、許可業者数及び就業者数の推移



- 建設投資額はピーク時の4年度：約84兆円から22年度：約41兆円まで落ち込んだが、その後、増加に転じ、26年度は約48兆円となる見通し(ピーク時から約42%減)。
- 建設業者数(25年度末)は約47万業者で、ピーク時(11年度末)から約22%減。
- 建設業就業者数(26年平均)は505万人で、ピーク時(9年平均)から約26%減。



出所：国土交通省「建設投資見通し」・「許可業者数調べ」、総務省「労働力調査」

注1 投資額については平成23年度まで実績、24年度・25年度は見込み、26年度は見通し

注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値

注3 就業者数は年平均。平成23年は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を補完推計した値について平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値

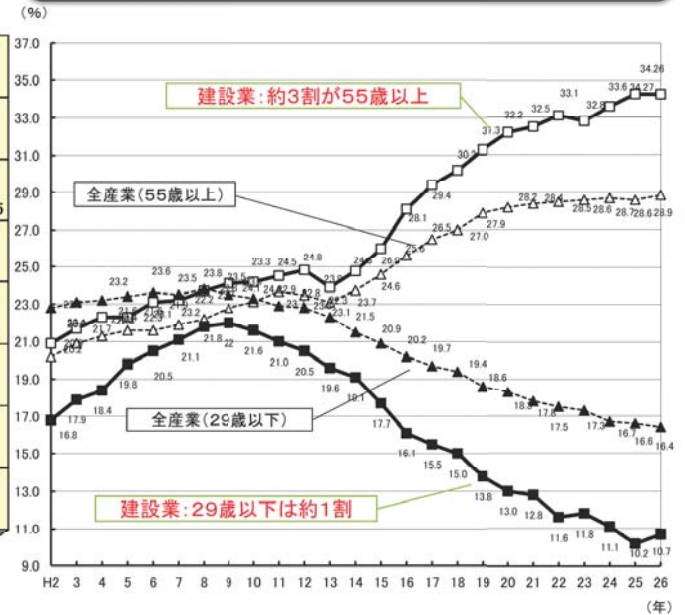
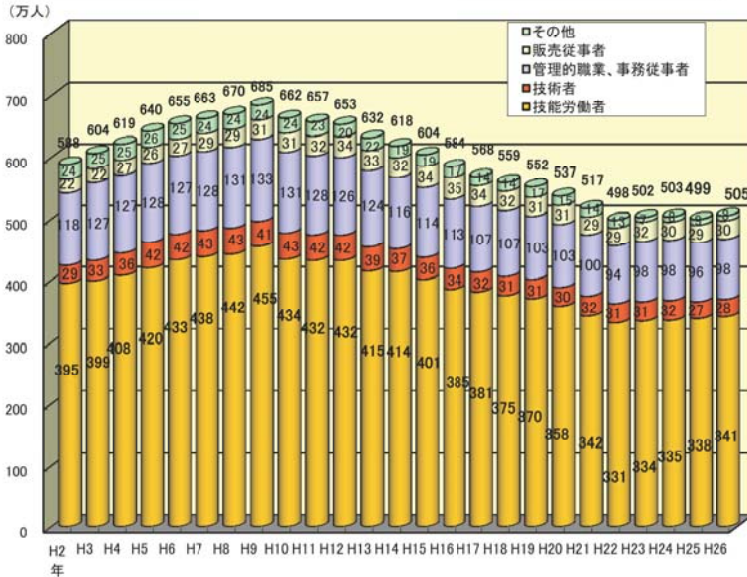
1. 建設産業の現状 (2)-①建設就業者の高齢化の進行

技能労働者等の推移

- 建設業就業者：685万人(H9) → 498万人(H22) → 505万人(H26)
- 技術者：41万人(H9) → 31万人(H22) → 28万人(H26)
- 技能労働者：455万人(H9) → 331万人(H22) → 341万人(H26)

建設業就業者の高齢化の進行

- 建設業就業者は、55歳以上が約34%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。
- ※実数ベースでは、建設業就業者数のうち平成25年と比較して55歳以上が約2万人増加、29歳以下が約3万人増加(平成26年)



出典：総務省「労働力調査」(暦年平均)を基に国土交通省で算出
(※平成23年データは、東日本大震災の影響により推計値。)

出典：総務省「労働力調査」を基に国土交通省で算出

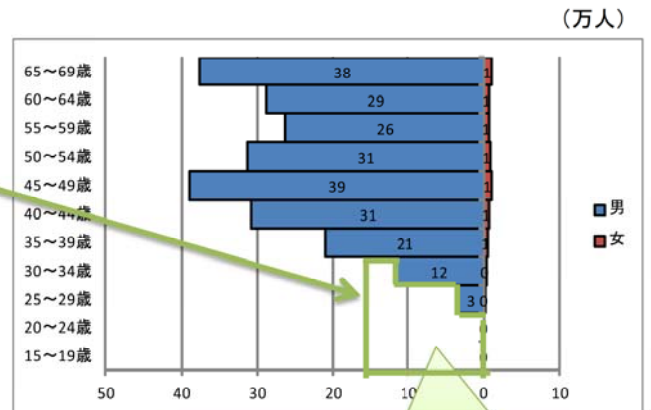
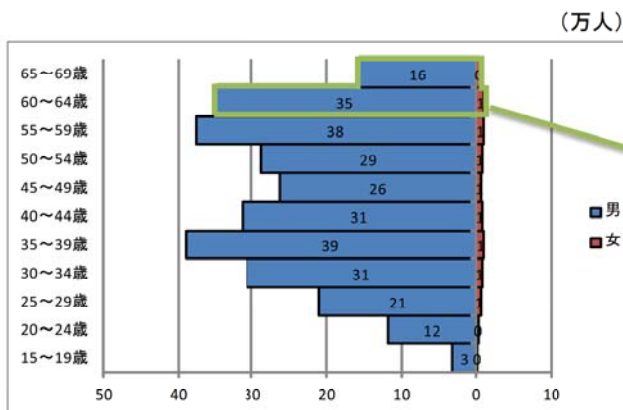
1. 建設産業の現状 (2)-②高齢者の引退、若年者の入職減

- 現在、**60歳以上の建設技能労働者等は52万人**存在し、全体の**約18%**に上る。
- **今後も引退による労働者数の減少は続き、10年後には、大半が引退することになる。**
- 他の年齢層においても年齢の上昇が見込まれる。→ **若年入職者の確保が課題**です。

※ なお、一定の能力を備えた技能労働者等を育成するためには、職種にはよるが、概ね10年程度の時間がかかると言われている。

平成22年の建設技能労働者等の人口ピラミッド

10年後の建設技能労働者等の人口ピラミッド(想定)

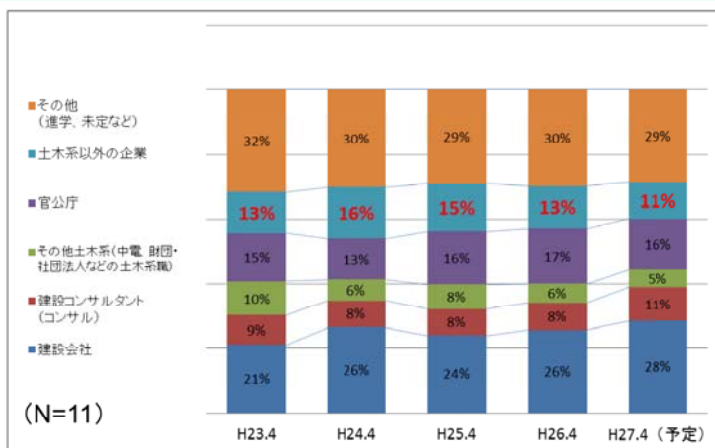


これだけの技能労働者を、若年入職で補填しなくてはならない。

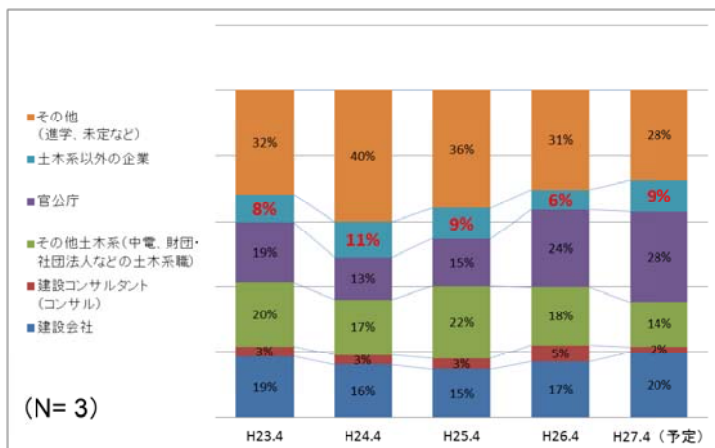
出典：総務省「国勢調査(2010年)」

1. 建設産業の現状 (2)-③学生(土木系)の就職先の傾向

【大 学】



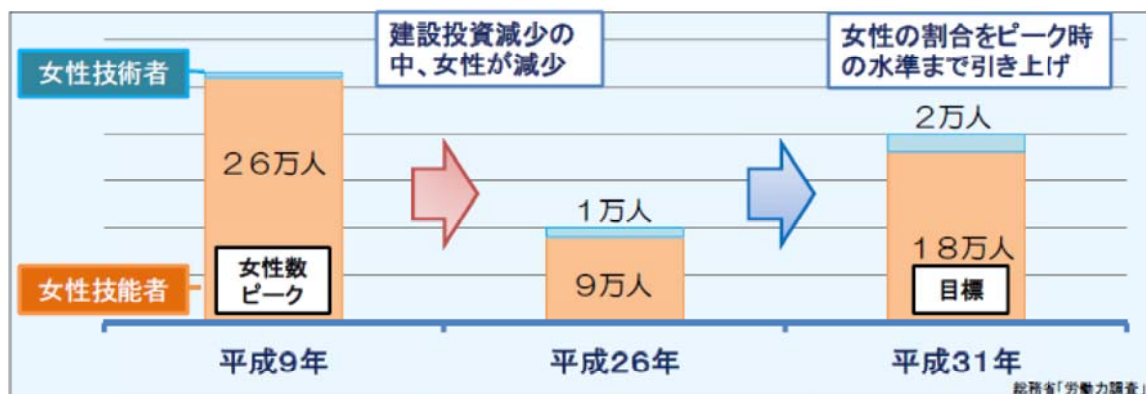
【高等専門学校】



データ出典: 参加依頼した学校(土木系学部)へのアンケート結果を中部地整で集計

1. 建設産業の現状 (3)女性技術者・技能者の現状

女性技術者・技能者を5年で倍増 10万人 ⇒ 20万人



	以前	直近	将来
女性技術者	平成10年頃から女性技術者の採用を本格化 (統計上把握可能なのは平成12年以降)	最近では女性技術者も増加 ※大手5社では新卒採用(技術者)の約1割が女性	女性技術者数を過去最高に
女性技能者	以前は今よりも多くの女性技能者が活躍(約6%)	建設投資急減の中、ピーク時の1/3に減少。(約3%)	女性技能者の割合を最高比率へ引き上げ(約6%)

1. 建設産業の現状 (4)建設企業の声 ※中部建設業現場レポート(H26.12.24公表)より

「中部建設業現場レポート」の概要

<内容> 管内各地域の地元建設業者に対して、景況感(受注状況)、技能労働者の不足感、技能労働者の労務費相当額の状況等についてヒアリング・アンケートを実施して、その結果を中部地方整備局で各地域ごとに集計・集約。

<実施方法> メール、FAX等によるアンケート(182社)及び企業への個別ヒアリング(53社)により実施。※アンケートと個別ヒアリングを実施した企業は一部重複する。
<公表予定> 原則3月、6月、9月、12月の年4回
<対象地域> 愛知県、岐阜県、三重県、静岡県

H26年12月公表分の要旨等

景況感について

- 受注量が確保され良いと見ている。先行きについては、一般的にやや消極的に見ている。

<主なコメント>

- 土木と建築は棲み分けが出来ており、公共工事が増えて民間工事が出来なくなるようなことはない。(元請)
- 土木は例年通りの受注を確保し、今年の目標高は達成したが、来年についてはまだ達成していない。建築は、例年より多くの受注があり、工期が年度末に集中しているため工程を組むのに苦労する。来年については余力を残し、8割程度の受注を確保している。(元請)

技能労働者の不足感について

- 引き続きあると答えた企業が多いが、人のやりくりや工期設定の工夫などにより施工を確保している。元請・下請ともかなりの企業が採用に努めているが、採用は厳しい状況にある。

<主なコメント>

- 技術者、技能労働者とも不足気味。特に鉄筋、型枠、左官が顕著。東京方面での仕事のボリュームが多くなるにつれ、東への移動があると思う。(元請)
- 11~3月は繁忙期となり、下請技能者の取り合いになることから逼迫する。(元請)

技能労働者の労務費相当額について

- 横ばい又は緩やかな上昇となっているが、今後もその傾向が続くと見ている。

<主なコメント>

- 賃金水準は高いところで落ち着いてきている。これ以上上げて人の確保ができるとは限らない。(元請)
- 設計労務単価引き上げのおかげでH26年夏以降は10%くらい契約単価が上昇している。(左官)
- 民間では需給バランスで価格が決まるので、設計労務単価引き上げの影響はほぼ無い。保険料分の上乗せは民間発注者に理解してもらえない。(型枠)

景況感(受注状況)の地域別DI値

地域区分	H26.3 DI値 (良い-悪い)	H26.6 DI値 (良い-悪い)	H26.9 DI値 (良い-悪い)	H26.12 DI値 (良い-悪い)	
中部圏計	16	-4	23	6	
愛知県	尾張地方	24	8	38	23
	三河地方	19	-6	6	-13
岐阜県	美濃地方	43	-7	18	0
	飛騨地方	54	0	23	-8
三重県	北中部地方	-11	-12	17	5
	南部地方	-34	-27	-8	-34
静岡県	東部地方	31	-16	15	0
	中部地方	-8	-30	8	7
西部地方	0	0	30	7	

6

2. 改正品確法について

公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律

<背景>

- 〇ダンピング受注、行き過ぎた価格競争
- 〇現場の担い手不足、若年入職者減少
- 〇発注者のマンパワー不足
- 〇地域の維持管理体制への懸念
- 〇受発注者の負担増大

<目的>インフラの品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保

- H26.4.4 参議院本会議可決(全会一致)
- H26.5.29 衆議院本会議可決(全会一致)
- H26.6.4 公布・施行

☆ 改正のポイントⅠ:目的と基本理念の追加

- 〇目的に、以下を追加

- ・ **現在及び将来の公共工事の品質確保**
- ・ 公共工事の品質確保の **担い手の中長期的な育成・確保**の促進

- 〇基本理念として、以下を追加

- ・ 施工技術の維持向上とそれを有する者の **中長期的な育成・確保**
- ・ 適切な点検・診断・維持・修繕等の **維持管理の実施**
- ・ 災害対応を含む **地域維持**の担い手確保へ配慮
- ・ **ダンピング受注の防止**
- ・ **下請契約を含む請負契約の適正化**と公共工事に従事する者の **賃金、安全衛生等の労働環境改善**
- ・ 技術者能力の資格による評価等による **調査設計(点検・診断を含む)の品質確保** 等

☆ 改正のポイントⅡ:発注者責務の明確化

各発注者が基本理念にのっとり発注を実施

- 〇 **担い手の中長期的な育成・確保のための適正な利潤が確保**できるよう、市場における労務、資材等の取引価格、施工の実態等を的確に反映した **予定価格の適正な設定**

- ・ **最新単価や実態を反映した予定価格**
- ・ **歩切りの根拠**
- ・ **ダンピング受注の防止** 等

効果

- 〇 **不調、不落**の場合等における **見積り徴収**

- 〇 **低入札価格調査基準**や **最低制限価格**の設定

- 〇 **計画的な発注、適切な工期設定、適切な設計変更**
- 〇 **発注者間の連携の推進** 等

☆ 改正のポイントⅢ:多様な入札契約制度の導入・活用

- 〇 **技術提案交渉方式** →民間のノウハウを活用、実際に必要とされる価格での契約

- 〇 **段階的選抜方式**(新規参加が不当に阻害されないように配慮しつつ行う) →受発注者の事務負担軽減

- 〇 **地域社会資本の維持管理に資する方式**(複数年契約、一括発注、共同受注) →地元にも明るい中小業者等による安定受注

- 〇 **若手技術者・技能者の育成・確保**や **機械保有、災害時の体制等**を審査・評価

3. 中部地整の取組 (1) 女性・若手技術者の登用・育成の取組(試行)

【背景】

6月24日に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針『骨太方針』には、少子高齢化対策を検討課題にするとともに女性の活躍促進が明記されました。

4月24日に国土交通省と建設業5団体共同で夏までに「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」(仮称)を策定することを申し合わせました。

また、(一社)日本建設業連合会との意見交換において、「若齢の技術者・技能者が少なく、技術の伝承ができない」等の課題が指摘されています。

① 女性技術者配置工事の試行

【試行の目的】

女性技術者の配置を入札参加要件とする工事を実施し、建設現場における女性の登用を促進

【試行方針】

- ・入札参加要件として女性技術者(監理(主任)技術者、現場代理人、担当技術者のいずれか)を配置
- ・女性技術者が担当技術者の場合は、工期の半分以上の配置を義務化
- ・女性技術者が現場で働くために必要な施設・設備等については、協議により実費を計上

② 若手技術者登用・育成工事を評価する試行

【試行の目的】

若手技術者を配置予定技術者[監理(主任)技術者]へ登用した工事に対して工事成績において評価し、若手技術者の登用・育成を支援

【試行方針】

- ・若手技術者を監理(主任)技術者へ登用した工事に対して、取り組みが評価できる場合は工事成績において評価する
- ・若手技術者の対象としては、40歳以下

3. 中部地整の取組 (2) 良好な就業環境の取り組み(試行)

【背景】

経済財政運営と改革の基本方針『骨太方針』には、女性の労働参加と出産や育児の両立を目指すことが盛り込まれました。

また、(一社)日本建設業連合会との意見交換において、「時間外労働が多く、満身に休日が取れない」等の課題が指摘されています。

① 週休2日・工程調整綿密対応工事の試行

【試行の目的】

受発注者双方が工程調整を綿密に行うことにより、原則週休2日を確実に取得できるようモデル工事を実施し、若手や女性技術者が建設業へ入職しやすい環境を整備

【試行方針】

- ・週休2日が確実に確保できるよう受発注者間で工程を調整し施工計画を策定
- ・天候や地域住民対応等で土曜・日曜日の施工が必要となった場合には、原則振替休日を取得
- ・受発注者で関係機関及び地元等との協議・調整状況の工程調整をASP(情報共有システム)等を活用して綿密に行い、休日を確実に確保できる対応を実施

② 子育てしやすい職場環境対応工事の試行

【試行の目的】

若手や女性技術者が安心して働きやすい職場環境づくりに積極的な対応をするモデル工事を実施し、若手や女性技術者が建設業へ入職しやすい環境を整備

【試行方針】

- ・工事現場における子育てサポートとして、時短勤務、家事、育児、学校行事等について、若手技術者や女性技術者が実施・参加しやすくするため、現場を離れた場合に現場補助員を設置する等の工事現場環境整備を実施
- ・子育て支援に必要な施設・設備等については、協議により実費を計上

3. 中部地整の取り組み (3) 広報 ①旬な現場その1

みんなで行こう!

春の旬な現場へ

国土交通省の「へえ〜」、「なるほど」がいっぱい

- 河川
- 道路
- 港湾
- 技術
- 公園
- 営繕

「驚き」や「新たな発見」が、いっぱい

- 整備局では、生活を豊かにするための社会資本整備を行っています。
- 河川・道路・港湾・防災など、皆さんの暮らしとの関係を、現場で実感してみませんか？
- 普段はなかなか目にする事のない、工事現場やダムなどの施設を公開します。
- 工事現場見学がひそかなブームに！
お気軽にお問い合わせ下さい。

中部地整管内における「旬な現場」マップ H27.3-H27.5 H27.2.28現在

- 河川
- 道路
- 港湾
- 技術
- 公園
- 営繕

狩野川の治水の要を見てみよう！
～巨大な河川トンネルの探検～
狩野川治水館

河-1

● 狩野川治水館は、伊豆の国中の地之上、伊豆長岡出発所の治世から狩野川を分派し、沼津市口野から沼津湾にそそぐ約30kmの人工水路です。
● 沼津のトンネル区間を有する全国の治水路の中でも珍しい構造となっており、分派地点のゲートを開放することにより、1秒間に最大2,000m³(25mプール6杯分)もの洪水を流すことができます。狩野川のはんご防止の要と見なされています。

狩野川治水館の見学会を実施しております。
● 日時 5～10月(お天候を考慮し変更する場合がございます) 詳細についてはお問い合わせください。
● 申込先 国土交通省中部地方整備局 企画部 企画課 電話:052-953-8127
● 申込先 国土交通省中部地方整備局 企画部 企画課 電話:052-953-8294

治水時の放水の様子(平成19年9月)

位置図

小学生にも治水路トンネルの見学

3. 中部地整の取り組み (3) 広報 ①旬な現場その2

中部地整HP上に 「若手技術者の声」を掲載

旅行会社へもPR!

旬な現場～若手技術者の声～

平成25年度木曾川源緑高潮堤防補強工事

～地固のために地震に強い高潮堤防を作る～

新田 勝紀

2005年入社

◆建設業に入った動機
“将来、自分の子供に自慢できるものを作りたい!”というのが動機でした。

◆仕事のやりがい
伊勢湾台風により高潮被害を受けた地域の防災・減災に関わる重要な工事に携わっていることが自身の使命感と充実感に繋がっています。

◆建設業入職を希望する若者
建設業は社会資本整備の中核を担っており、日々技術と仕事の積み重ねが成果として現れる職種です。モノづくりの感動と達成感は一何にも勝る魅力があります。皆さんが日常的に使っているインフラの一つひとつには、建設業で働く人たちの努力や感動の物語が詰まっており、これから建設業に入職を希望される若い技術者の方にも是非、そういった物語を作っていくってほしいと思います。

【工事概要】
本工事は、木曾川左岸の高潮堤防の緩い砂層(赤色部)に、砂圧入式的締め固め工法を用いて砂を圧入することで地盤の強度を向上させ、地震発生時における堤防の液状化を防止することを目的としています。

【工事位置図】

旬な現場 をご案内します。

- 整備局では、生活を豊かにするための社会資本整備を行っています。
- 河川・道路・港湾・防災など、皆さんの暮らしとの関係を、現場で実感してみませんか？
- 普段はなかなか目にする事のない、工事現場やダムなどの施設を公開します。
- 「驚き」や「新たな発見」が、いっぱい！ ぜひ、お気軽にお問い合わせ下さい。

～旬な現場一覧～

一般の方はこちらをクリック

旅行会社の方はこちらをクリック

工事現場やダムなどの施設見学をツアーに組み込みませんか？

中部地方整備局では、社会資本の役割を知っていただくため、通常立ち入ることのできない工事現場やダムなどの施設を「旬な現場」として一般の皆さんに積極的に公開しています。

観光地に近い施設や工事現場もあることから、「旬な現場」をバスツアーなどの旅行企画に組み入れる等のお考えがあれば、ぜひご相談いただきたいと思います。

※「旬な現場」見学は、中部地方整備局が無償で対応いたします。工事の進捗状況により、対応できない期間がありますことを予め承知ください。

旬な現場 一覧はこちらをクリック

【問い合わせ先】
中部地方整備局 企画部 企画課
TEL:(052)953-8127
FAX:(052)953-8294

3. 中部地整の取り組み (3) 広報 ②大人の社会見学会

- 社会基盤等の整備に関心のある方を対象とし、「旬な現場」(今しか見られない工事現場)や各施設等の紹介に加え、河川、道路、港湾整備等の必要性、災害対応等についても説明する会
- 第2回(平成26年7月23日)は、テーマを「港」とし、名古屋港の役割や歴史、防災対策などについて説明を行った後、「翔龍」「第三明竜」の2隻の船に乗り込み、船上から防波堤の整備状況や、物流の要であるコンテナターミナルなどを見学しました。また、停泊中の「清龍丸」の間近まで近づき、浚渫や油回収、災害支援などの役割についても説明を行いました。

■見学会概要

日 時：平成26年7月23日(水)
13:00~16:00

場 所：名古屋港弥富ふ頭
現場事務所インフォメーションセンター

参加者：19名(男性13名、女性6名)
※今回は37歳~75歳の方が参加

【座学】

名古屋港の役割、歴史にくわえ、防災対策などの社会資本整備・保全の必要性について説明(約30分)

【現場見学】

港湾施設や防災施設等を船上より見学(約2時間)

●座学



【座学の様子】



【熱心に耳を傾ける参加者】

●船上からの見学



【船内での説明の様子】



【コンテナターミナルの見学】

3. 中部地整の取り組み (3) 広報 ③出前講座の開催

○学校関係への出前講座の実施

国土交通省中部地方整備局の職員が津波・地震などの災害対応における建設業の役割などを内容とする出前講座を中学、高校を対象に実施。

(内容)

- 動画を交えたパワーポイントによる講義
- ・東日本大震災の際の緊急対応
 - ・南海トラフ巨大地震へ備える
 - ・防災活動における建設業者の役割
 - ・建設工事の紹介 等



(イメージ)

大型土のう設置作業



建設業の役割伝える
中部圏広報NW協
中学校で出前講座

(11/10)建設通信新聞

平成26年度 出前講座開催状況

(中部地方整備局)

開催日	地区	学校名	受講者数
10月23日	愛知県	愛知県立丹羽高等学校	40人
11月5日	愛知県	東海市立富木島中学校	370人
11月7日	静岡県	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	15人
12月4日	愛知県	豊橋市立本郷中学校	40人
12月8日	愛知県	名古屋市立はぐり中学校	80人
12月10日	愛知県	学校法人名古屋電気学園 愛知工業大学名電高等学校	60人
12月17日	愛知県	学校法人名工学園 名古屋工業高等学校	70人
1月28日	愛知県	愛知県立一宮北高等学校	700人
2月2日	愛知県	愛知県立知多翔洋高等学校	280人
3月11日	愛知県	豊川市立西部中学校	440人
3月12日	愛知県	愛知県立半田工業高校	29人

(講座の様子)



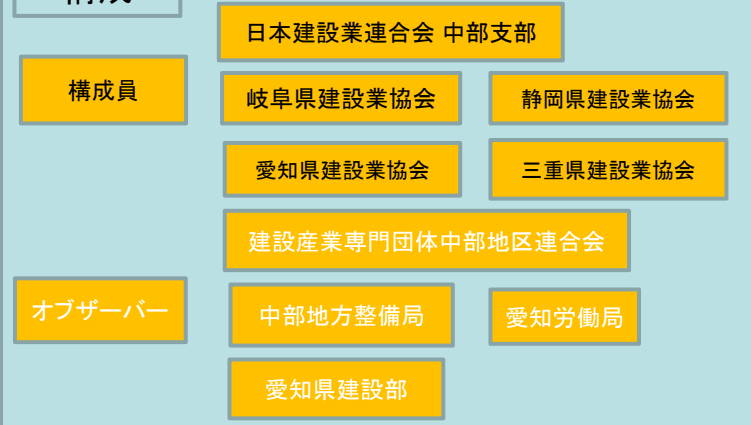
3. 中部地整の取り組み(4) - ①中部圏建設広報ネットワーク協議会への協力 国土交通省

中部圏建設広報ネットワーク協議会

(平成25年11月25日設置)

中部地方整備局管内(岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)の各県建設業協会等が、広報戦略を効果的に進め、建設業の魅力を発信し、入職促進を図る目的で平成25年11月に設立した協議会。行政機関はオブザーバーで参加している。

構成



これまでの活動

- 平成25年11月25日 第1回会議 設置
- 平成26年2月27日 第2回会議 関係者からの聞き取り結果の報告及び対策案の検討
- 平成26年6月25日 第3回会議 26年度広報戦略の決定
- 平成26年12月25日 第4回会議 27年度広報戦略の一部決定

平成26年度 中部圏建設広報ネットワーク協議会 広報戦略

(平成26年6月25日決定)

○建設若者塾

建設業界に入職した者の地域内交流、ネットワークづくりを目的として、3年以内の若年建設業従事者を対象とした研修会を実施。

平成26年10月3日(金)～10月4日(土)開催 45名参加

○休日休工の促進

(週休2日・工程調整綿密対応工事の試行中)

休日休工を目指した事業として中部地方整備局発注工事で3件契約。

○求人情報における取組

各企業の求人において企業情報として中部圏で統一したキャリアパスを作成。

○学校関係への出前講座の実施

津波・地震などの災害対応における建設業の役割を内容とする出前講座を中学、高校を対象に実施。

- ・東日本大震災の際の緊急対応
- ・南海トラフ巨大地震へ備えるインフラ整備
- ・防災活動における建設業者の役割

各県労働局、教育委員会等を通じて小・中学校、高校に講座開催を周知。(愛知県、静岡県内で11校実施)

○広報用DVD作成

中高生向けに、建設業のイメージを伝える短時間(10分程度)の広報用DVDを作成中。

(苦労話、やりがいを話すインタビュー、女性の活躍など、中高生が興味を持つ内容・長さのものを作成)

○Webサイトを活用した発信等

中部地方整備局HPに下記バナーを設置し、中部圏建設広報ネットワーク協議会のフェイスブックにて中部の建設業に興味のある方に対して情報を発信中。

(<https://www.facebook.com/chubu.kpin>)

3. 中部地整の取り組み(4) - ②建設若者塾の開催

趣旨 管内各県建設業協会等の広報戦略を効果的に進める目的で、平成25年11月に設立した中部圏建設広報ネットワーク協議会が、若年者を対象に建設業の職業観・就労意識の形成・向上を図りつつ、若者同士の交流・ネットワークづくりを促進することを目的として「建設若者塾」を開催した。

日時 平成26年10月3日(金)～4日(土)

参加者 愛知・静岡・岐阜・三重の若手建設従事者45名(内訳は下表)

内容 1日目 ○局長講話

- 建設業で働くことの社会的意義の理解(講義)
- 建設業で本当にあった心温まる物語の共有(グループディスカッション)
- ダントツすご技職人になるための計画作成(グループディスカッション)
- 親方への感謝の手紙(グループディスカッション)
- 交流会(腕相撲大会など)

2日目 ○NEXCO管制センター、名古屋城本丸御殿建設現場などの現場見学

報道 朝日新聞(10/4)、中日新聞(10/8)、建設専門紙、三重テレビ(10/20放映)等



(局長講話)

参加者内訳	人数計	職種別							
		監督	土木	製鉄大工	鉄筋	塗装	倉	左官	タイル
岐阜県	11人	8人	2人	1人					
静岡県	8人		5人	2人	1人				
愛知県	19人	7人	4人	2人	1人	2人	1人	1人	1人
三重県	7人	4人	3人						
合計	45人	19人	14人	5人	2人	2人	1人	1人	1人

(交流会)



(グループディスカッション)

建設業の若手
同世代と交流
名古屋で研修会

朝日新聞(10/4 朝刊)

3. 中部地整の取り組み (4) - ③ 広報用DVDの作成

中高生向けに、建設業のイメージを伝える広報用DVDを作成しています。

【内容】 10分程度で建設業の魅力を紹介

- ・名古屋発のアイドルユニットである「dela」による活気ある建設現場訪問
- ・未来の「けんせつ小町」も合流し建設専門学校の探訪
- ・まちづくりにおける建設業の役割
- ・東日本大震災の被災地における建設業の役割
- ・若い世代からのメッセージ



(オープニング)



(建設現場訪問)



(建設専門学校探訪)



(若い世代からのメッセージ)